

駒村 康平

慶應義塾大学 経済学部 教授

国民年金の繰上げ受給における逆選択に関する実証研究

公的年金制度における老齢年金の支給開始年齢は、65歳が標準となっているが、実際には、受給権者が繰上げ繰り下げ受給を選択することにより、60歳から70歳の幅で選択可能になっている。繰上げを選択する人の割合は、国民年金では高く、低い年金額の一要因になっている。多くの人が繰り上げ受給を選択しているものの、これまでどのような人が繰り上げ受給を選択しているかは明らかではない。仮に短命な人ほど繰り上げ受給を選択しているならば、個人にとっては合理的な選択であるが、公的年金保険制度上は、逆選択の発生を意味する。公的年金制度では、財政の安定性を確保するために支給開始年齢の引き上げは将来不可避になるが、その移行を具体化する方法として、繰上げ・繰り下げ受給の減額・増額率は重要な政策パラメーターになる。本論文は、アンケート調査を使い繰り上げ受給、繰り下げ受給への意向、動機を調査し、自らを短命と予想している人は、繰り上げ受給を選択する傾向にあることを確認した。したがって、繰り上げ、繰り下げ受給の減額・増額率を改定する場合、こうした逆選択の要素を考慮し、制度改定を行う必要があることが確認できた。